

皆さんが納めた税金や国・県からの支出金、地方交付税は、どのように使われたのでしょうか？昨年度の南国市の収入と支出についてお知らせします。

歳 出

歳出総額は、218億7千804万5千円で、前年度決算額に比べて11億9千499万3千円（5.8%）の増額となっています。

性質別歳出の状況は、義務的経費のうち人件費は、退職手当などの減により、7千956万5千円（2.3%）の減額となりました。

扶助費は、児童扶養手当などの増により、1億5千439万7千円（2.7%）の増額となりました。

公債費は、9千367万8千円（5.3%）の増額となりました。

投資的経費は、都市再生整備事業費や土地区画整理事業費などの増により、4億7千526万円（16.4%）の増額となりました。

物件費は、プレミアム付商品券事業費などの増により、3億8千253万円（14.5%）の増額となりました。

補助費等は、塵芥処理関係事業費などの増により、4千65万3千円（2.7%）の増額、繰出金は、5千326万円（2.5%）の増額となりました。

積立金は、ふるさと応援基金積立金などの増により、1億9千30万7千円（14.6%）の増額となっています。

総括

3億6,015万円の黒字 借金である地方債借入残高は増加

南国市の令和元年度普通会計の決算状況は、歳入が225億5,873万1千円、歳出が218億7,804万5千円で、歳入歳出差引額は6億8,068万6千円となりました。翌年度への繰り越し財源3億2,053万6千円を除くと3億6,015万円の黒字となります。

また、歳入の根幹をなす市税総額は748万円の増額、地方交付税は4,604万4千円の増額となり、臨時財政対策債は1億1,483万2千円の減額となりました。

地方債借入残高は、令和元年度末残高198億3,757万4千円、5億974万4千円（2.6%）の増となっています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は94.7%と前年より3.3ポイント増加し、財政の硬直化が進んでいます。

今後も、公債費負担適正化計画などにより、健全な財政運営確立に向け行財政改革を進めていきます。

歳 入

歳入総額は、225億5千873万1千円で、前年度決算額に比べて9億3千126万5千円（4.3%）の増額となりました。

市税では、固定資産税5千87万7千円、軽自動車税795万2千円、市町村たばこ税45万3千円の増額となり、市民税5千192万円の減額となり、税収全体では748万円（0.1%）の増額となりました。

地方交付税は、4千604万4千円（1.1%）の増額となりました。

国庫支出金は、社会資本整備総合交付金などの増により、2億5千773万円（6.3%）の増額となりました。

県支出金は、工業団地開発関連事業費補助金などの増により、2億2千727万9千円（12.8%）の増額となりました。

地方債は、都市再生整備事業や土地区画整理事業等の普通建設事業費の増により、1億1千746万8千円（5.5%）の増額となりました。

用語解説

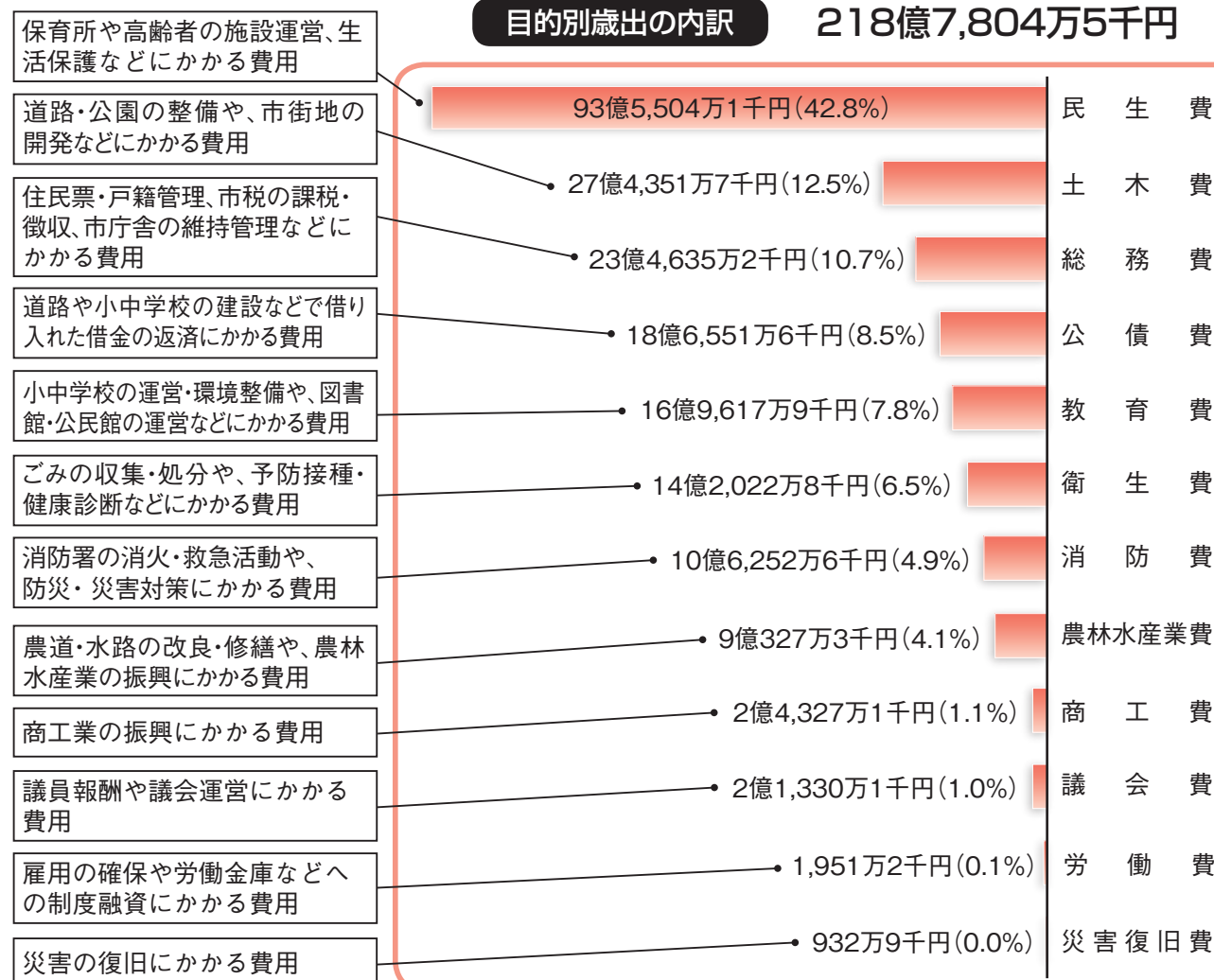
●普通会計とは？

一般会計・住宅新築資金等貸付事業特別会計・土地取得事業特別会計の合計額から、繰り入れや繰り出しなど、会計間の重複額を控除した統計上の会計区分です。

●経常収支比率とは？

地方税や普通交付税などの経常一般財源収入のうち、人件費や扶助費、公債費など毎年度経常的に支出される経費にどれだけ充当されたかを示すもの。比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

目的別歳出の内訳 218億7,804万5千円



歳入の内訳 225億5,873万1千円

